

# ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2023年4月4日放送分・石切町／覚性院丁】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 新シリーズ「四ツ谷用水を追う」4回目となる今回は、青葉区八幡4丁目の瀬田谷不動尊という小さなお社からスタート。東西に流れる四ツ谷用水本流から、河岸段丘を下がった所にある小さなお社です。石工衆の守り本尊だそうです。
- コーナー34本目の辻標は「石切町／覚性院丁」。石切町は仙台城の石垣作りに携わった石工達の町で、実際に江戸時代から続く石材店が辻標のすぐそばにあります。一方の覚性院丁は、伊達氏より前に仙台を治めていた国分氏ゆかりの寺です。明治の廃仏毀釈で廃寺となり、跡地には同じく国分氏の守り神である春日神社があります。



- 今回のハイライトは、世にも珍しい「暗渠の立体交差」です。春日神社の参道を横切る形で四ッ谷用水の暗渠がありますが、その下を「へくり沢」の水が南北に流れているのです。江戸時代には、四ッ谷用水が「懸樋(かけひ)」という箱型の樋で「へくり沢」を渡っていました。今はさすがに木製の樋ではないはずですが、地下では四ッ谷用水がへくり沢の上を通っているのです。なお、四ッ谷用水本流の流れをしのぶ痕跡として、洗い場跡があります。昭和30年代まで開渠だった流れに、上の民家からアクセスする階段の跡がクッキリ残っています。暗渠の立体交差と、洗い場跡。どちらも青葉区八幡2丁目の春日神社そばです。春の陽気に誘われるまま、ぜひ現場を歩いてみて下さい！



〈文・佐々木淳吾〉